

■東京支部活動の報告

① 東京支部 オンライン人生塾のご案内

教育 30 期でクロスオーバーホルン奏者の東谷慶太さんがお届けする YouTube 無料配信音楽番組 KEITA MUSIC ROOM を開設と同時に、クラウドファンディングを立ち上げました。

東京支部といたしましても、支援活動の一環として、東京支部初のオンライン人生塾を開催いたします。

- ・日時:9/26 13:00～約 60 分
- ・場所:オンライン GoogleMeet (仮)
- ・参加費:無料
- ・お申し込みは、東京支部へメールにてお申し込みください。 e-mail: tokyo@kourokai.com
- ・イベント当日までに、事務局から参加用 URL をメールにてご案内します。

クロスオーバーホルン奏者 東谷慶太さん(教育 30 期)が音楽番組を無料配信。

この度、クロスオーバーホルン奏者 東谷慶太さんがお届けする YouTube 無料配信音楽番組 KEITA MUSIC ROOM を開設いたしました。クラシックのみならず、様々なジャンルに渡って長年演奏活動を行ってまいりました。今回、新しい音楽の形を模索することをもとに、新しい切り口で音楽作品をお届けしたいと考えています。

KEITA MUSIC ROOM <https://www.youtube.com/user/PopCorneProject/featured>

また、クラウドファンディングを立ち上げました。この YouTube 無料配信 KEITA MUSIC ROOM プロジェクトシリーズが継続できますよう、皆様のあたたかいご支援を宜しくお願い申し上げます。

KEITA MUSIC ROOM クラウドファンディング <https://camp-fire.jp/projects/view/306295>

YouTube チャンネル 配信中!

Vol. 1 東谷慶太ホルンリサイタル 全11作品 ピアノ:米山多佳子

2020年 10月～ 配信予定

Vol. 2 Original Duo ゲスト:幾武みゆき(ピアノ)

2020年 11月～ 配信予定

Vol. 3 Special Trio ゲスト:栗本りえ(フルート) 西本夏生(ピアノ)

国内最大のクラウドファンディング <https://camp-fire.jp/projects/view/306295> CAMPFIRE にて、プロジェクト公開中 2020年9月29日まで

ライブこそ音楽の醍醐味です。しかし、安心して皆さまに音楽を楽しんでいただくことが簡単でなくなりつつある現状があります。特に、介護施設、医療施設においては厳しい状況が続いています。心休まる時のない環境において、一意ついでいただくことができれば音楽家として何よりも嬉しいことです。また、教育現場においても役立てていただければ幸いです。もちろん、全ての皆さまが幸せな日々を送ることができるとはなれば何よりも嬉しいことです。

クロスオーバーホルン奏者 東谷 慶太

東谷慶太オフィシャル YouTube チャンネルはこちら <https://www.youtube.com/user/PopCorneProject/>

Miyuki Ontake <http://www.ontake.com/> Rie Akagi <http://www.rie-akagi.jp/>
Natsuki Nishimoto <http://www2.furano.jp/natsuki/> Keita Higashitani <https://keita-higashitani.com/>



第 6 回ヘンデル作曲 オペラ「リナルド」私を泣かせてください

<https://youtu.be/6a2qAZYZ0uI>

YouTube 無料配信音楽番組 KEITA MUSIC ROOM

第 1 シリーズ 東谷慶太ホルンリサイタル

2020 年 6 月 19 日 無観客コンサート収録 会場:スペース D0

HORN 東谷慶太 PIANO 米山多佳子

◆和歌山大学 ニュース

① 和歌山大学の木川剛志教授が国際映画祭で最優秀ドキュメンタリー脚本賞受賞

和歌山大学観光学部教授・木川剛志さんの監督作品「Yokosuka1953」が8月1日、イタリアの「ヴェスヴィオ国際映画祭」で最優秀ドキュメンタリー脚本賞を受賞。

木川さんは「最初にメッセージをもらった後、何度かやり取りする中で、ヨーコさんの写真が掲載された当時の新聞記事や『海の町で育った』『魚を食べ過ぎて嫌いになった』など具体的なエピソードを聞き、母親探しに協力することを決めた」と話す。

※詳しくはこちら <https://news.yahoo.co.jp/articles/c36f95f93754450e3c7644bbdf90b17668dc14c5>

② 9/13(日)開催！～市駅“グリーングリーン”プロジェクト 2020

《夕暮れのシエキノカワでピクニック。》イベント情報

芝生エリアにハンモックやティピーテント、デッキチェア、ピクニックラグ等を配置しておしゃれなピクニックを演出するほか、飲み物や軽食・バーベキューが楽しめる飲食スペース、ペアで参加できるカヌー体験や、夕暮れの灯りの演出、手持ち花火などを行います。

日時 2020年9月13日(日)14時～19時

場所 紀の川第5緑地「シエキノカワひろば」(南海和歌山市駅から徒歩7分)

※詳しくはこちら <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2020090200058/>

③ 第33回和歌の浦干潟観察会

ハクセンシオマネキ(絶滅危惧2類)やチゴガニの求愛行動、コメツキガニの砂団子、水際に群がるヤドカリ類、テッポウエビ、近畿圏では他では殆ど見られないイボウミナ(絶滅危惧2類)など、たくさんの生き物を観察できます。

●日時:2020年9月13日(日)、10時～12時

●観察予定地:観海閣(妹背山)周辺の干潟 和歌山市和歌浦中3丁目4-28

●集合時間と場所:10時に観海閣(玉津島神社の向かい) 但し、雨天中止(但し、小雨決行)

●費用:資料一部300円(希望者のみ)

●服装や準備物、その他注意点:長靴または泥にはまっても良い靴(サンダル・水雪駄は泥に足を取られるので不適)。帽子、軍手、タオル等、採集道具や飲食物、着替えは各自の判断で。

今年は新型コロナウイルスへの感染が懸念される状況なので、できる限りの配慮は行いますが、参加される方も各自でマスクの着用などの感染症対策をお願いします。熱中症にも注意しつつ。

※詳しくはこちら <https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/news/2020082400015/>

④ ウェビナー「Recovering sustainably, global lessons for Japan's tourism industry」公開

【CTRウェビナー 録画公開！】”サステナブルにリカバリーする”とは？

”日本の観光産業へのグローバル・レッスン“として、8/19(水)に開催された観光学オンラインセミナーがYouTubeで公開されました。自動翻訳の機能もオンですので、よろしければご参照ください。

豪華スピーカーの講演資料も9/15/(火)までダウンロード可能！ 授業教材にもご利用いただけます。

▼和歌山大学CTR(国際観光学研究センター)主催

オンラインセミナー第2弾:「Recovering sustainably, global lessons for Japan's tourism industry」

https://www.youtube.com/watch?v=Ww0sbTaRsOE&feature=emb_logo

▼講演資料は録画公開ニュースページより(9/15(火)迄):

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2020082600019/>

◆和歌山関連 ニュース

① 和歌山を舞台にした映画『ソワレ』が公開されます

「燦燦さんさん」の外山文治監督が、村上虹郎と芋生悠演じる若い男女の切ない逃避行を描いたドラマ。豊原功補、小泉今日子、外山監督らが立ち上げた映画制作会社・新世界合同会社の第1回プロデュース作品。

公式HP <https://soiree-movie.jp/>

② オンライン開催 ワークेशन会議 in 和歌山

「ウィズコロナ時代の新しい働き方を考える」

リゾート地などで休暇を兼ねて生産性の高い柔軟な働き方を実現する「ワークेशन(Work+Vacation)」をテーマに、9月から和歌山県南紀白浜、鳥取県、新潟県、岩手県で連続シンポジウムを開催しウェブで配信します。自治体関係者、学識者や専門家が地域の持つ課題について討議するほか、コロナと共生しつつ、企業活動が段階的に正常化するなかで新しい働き方が生み出す変化や価値を探ります。

【日時】令和2年9月16日(水)(予定)13:00~16:00

【受講料】無料

※詳しくはこちら <https://events.nikkei.co.jp/27984/>

③ 「仲間とつくる」をかなえるオンライン移住体験 申し込み受付中!

わかやまに移住するひとつ、どんなひとつ？ひとを知るには、何かを一緒につくるのがいちばん。「ワカヤマライフTV」は、料理からDIY、クラフト、写真、パンダまで様々なテーマで5人の移住の先輩たちとつくる、オンラインワークショップです。さあ、「仲間とつくる」をかなえる、わかやまの世界へ。ちょっとテレビでも観る気軽さで、リラックスしてお楽しみください。市町村の移住担当スタッフと個別に話せるオンライン相談会「バーチャル現地訪問」も同時開催中です!

日時:令和2年9月6日(日)13:00~14:00 9月22日(火・祝)11:00~17:00

メッセージ機能で質問可能!プレゼントが当たるチャンスも!?

詳しくはこちら <https://www.wakayamagurashi.jp/howto/event-info/13567>

④ 移住や会社移転へ発展期待~加太は住民有志が受け入れ

ワークेशनや移住に詳しい和歌山大学の佐久間康富准教授は「空港や大阪へアクセスしやすく、食べ物がおいしくて景観もいい和歌山はワークेशनに適している。その反面、移住してきた人が地域の人とコミュニケーションを取り、うまく生活していけるかとの心配もある。加太のように移住前に面談などし、互いに尊重し合えるか見極めるのが大事」と考えている。 ※詳しくはこちら https://www.nwn.jp/news/200808_kada/

⑤ 和歌山 IT企業誘致にかかる人材確保の奨励金を創設

和歌山県ではこれまで、企業に対する誘致のインセンティブとして、雇用奨励金や航空運賃補助金等の奨励金制度を設けていましたが、今般、新たに県内のオフィスで勤務する人材を確保するための経費にかかる奨励金を創設しました。コロナ禍の影響でテレワークが普及し、人が密集した首都圏から地方への移住志向がこれまで以上に高まっています。本奨励金により、地元IT人材の雇用先確保はもちろんのこと、首都圏からのIT人材の移住を後押しします。

【和歌山県の奨励金制度(試験研究施設、オフィス施設)】

※今回創設 :人材確保補助金(情報関連事業)

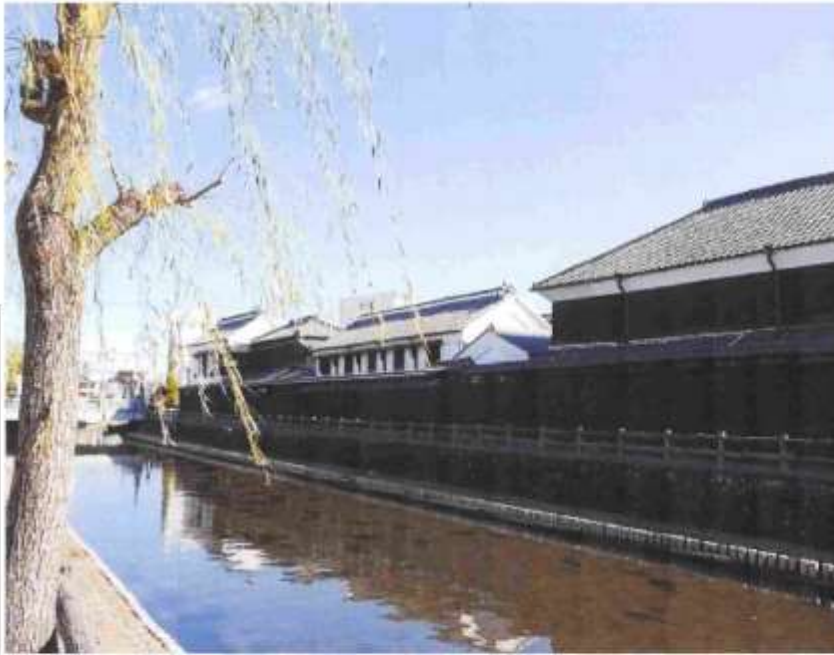
・求人広告費×50%(1年間) ・人材紹介手数料等×50%(1年間)

・ネットによる求人情報・求職者情報提供(人材データベース等)サービスの利用料×50%(1年間)

詳細は下記URLをご覧ください <https://ritti.pref.wakayama.jp/ict/support/>

芦火

第679号
2020.9



今月の表紙

秋の水・水澄む

令和2年9月1日 柑芦同人誌 芦 火 第679号

清記を終えて 2 679号

○ 純一さんの散歩道の自然、今月はムクゲである。万葉集では秋の七草の一つとして登場する。朝露がムクゲをさしているという説がある。写真に見られる真ん中が赤い色を「そこ紅」といふ傍題が在るのも頷ける。本当にきれいな花をきつぱりと活写して頂いている。

○ コロナ問題の落ち着き先が全く見えない。今年の梅雨は長く広範囲に豪雨をもたらした。そして梅雨明けである。毎日猛暑日が続く。体調管理が大変である。お盆、帰省の季節でもあるが例年と異なり帰省する人も少ない。その中で高齢者はまだ恵まれている。年金は減らない。仕事に出かけることも少ない。ただ従来と異なり行動半径は狭まっている。そのなかでどう生きるかが問われている。メディアは政府に何事にも指示してほしい言い方をするが、基本的に強制力を伴わない要請であるから、世間の迷惑をかけぬよう、どう生きるかは個人の課題である。今まで個人の行動に政府は関与しないと言い続けた、野党、メディアが最近は何の強力的指示を待つような言動が多いことは気になる。私権制限は平時に議論すべきで、そのことを忘れてきたつけが今来ているのではないだろうか。

○ 香港の一国二制度は崩壊したようにみえる。米国もどうとう本気で中国の共産党独裁体制に向き合っている。決してトランプの思いつきとは見えず、ニクソン大統領以来、中国が豊かになれば、民主主義へ移行するという考えだったが、ウイグルでの圧政、南シナ海での珊瑚礁の軍事化、そして香港問題で、堪忍袋が切れたようだ。二天国の接間で日本はどう生きるか問われることになる。一国平和主義も見直す時期となったようだ。

◎ 本高得点者

20点 としを 16点 碧亥 15点 安男、14点 恵吾

13点 頭一郎、史浩 12点 草炎 10点 純一、六甲、恭行 勝、徳心

◎ 本号高得点句

6点 遠き日の帆多の記憶や南風汗

6点 点滴の音無き音や桜桃忌

6点 街も田も川も分かつ大出水

5点 日々同じ葉を飲みて梅雨深し

5点 余生なほ慌てまいぞ時計草

5点 万緑を独り占めなり山暮らし

5点 目を合わせることなく陽子動かしぬ

惜しい！4点句 新緑やとしを、父の日や史浩 天井は安男 樹割を温州
涼しさや純一 うつつの史浩 ハンモック眠る碧亥

次号系匠「切捨て御免」担当 一 としを (二回目まで今年終了)

次号兼題 秋の水・水澄む 秋の水という和歌や連歌の時代から詠まれ続けてきた手題があり、「水澄む」はこれとほぼ同類、あるいは秋の水の傍題とも言える。秋になると川・湖・池・海あるいは庭先の葉の水も澄んでくる。秋は空気が澄んで遠くまで見通せる。天高く晴れ上がる気持ちの良い秋の澄み渡る様子を水に代表させている、手語である。

・眠りたる目を洗はばや秋の水 向井去来 ・秋の水浅く明らかに退く流る 日野草城
・石投げて心つながら秋の水 木下夕爾 ・水澄みて金閣の金さしにけり 阿波野青歌
・水澄んで遠くのもの声を待つ 谷野子志 ・水澄めりポケットにいま拳のみ 日迫秩父

